

草津川廃川敷地基本構想策定連携業務
調査研究報告書

平成22年度
草津未来研究所

目次

はじめに	1
第1章 歴史的役割と歴史的・文化的遺産を保存する視点でみる草津川跡地の可能性	3
第1節 プラス側面からみた旧草津川の歴史的役割	3
1 交通の要衝としての草津宿の基盤づくり	3
2 肥沃な土地での農業の進展	3
3 北山田の野菜栽培	4
4 旧草津川堤防の桜並木	4
第2節 マイナス側面からみた旧草津川の歴史的役割	5
1 度重なる洪水等の災害	5
2 交通上の障壁	5
第3節 歴史的・文化的視点からみた草津川跡地	6
1 歴史的・文化的遺産としての旧草津川	6
2 歴史的・文化的遺産としての第5次草津市総合計画での位置づけ	6
3 草津市総合計画における草津川跡地の認識変化	7
1) 第1次総合計画	7
2) 第2次総合計画	7
3) 第3次総合計画	8
4) 第4次総合計画	8
4 草津川跡地の土地利用に関する市民意識	9
5 歴史的・文化的遺産保としての今後のあり方	11
第2章 草津川跡地の潜在的可能性	12
第1節 草津川跡地がもつ潜在的可能性の検討項目	12
1 「シビック・プライド(ふるさと草津の心)」が生まれる街	12
2 「住んでみたい街・住みたい街」と「街ランキング」	12
3 (株)マイクロミルの「住んでみたい街ランキング」	13
4 メジャーセブンの「住んでみたい街アンケート」	14
5 人が「住んでみたい街・住みたい街」とは	14
6 「住んでみたい街・住みたい街」アンケートのキーワードを 実現する「まちづくり」と草津川跡地の利活用	15
7 行政として目指すべき方向性の加味	15

第2節	交通の視点	15
1	草津市における交通の現状	15
2	草津市における道路の現状	16
3	第5次草津市総合計画における道路	16
4	草津川跡地の土地利用に関する市民意識	17
5	道路整備に関する経緯と道路の機能	18
6	若者のクルマ離れ	19
7	交通の視点の小括	20
第3節	環境の視点	21
1	草津市における自然環境の現状	21
2	第5次草津市総合計画における環境	22
3	草津川跡地の土地利用に関する市民意識	22
4	環境の視点の小括	25
第4節	景観の視点	26
1	草津市における景観の実情	26
2	第5次草津市総合計画における景観	27
3	都市計画マスタープランにおける景観	27
4	景観の視点の小括	28
第5節	緑化(みどり)・公園の視点	28
1	草津市における緑化(みどり)・公園の実情	28
2	第5次草津市総合計画における緑化(みどり)・公園	29
3	第2次草津市緑の基本計画における緑化(みどり)・公園	30
1)	草津川跡地の整備方針	30
2)	草津川跡地に係る市民意識	30
4	草津川跡地の土地利用に関する市民意識	31
5	熱を溜めにくい町	31
6	市民との協働による持続可能な公園づくり・緑化(みどり)づくり	32
7	緑化(みどり)・公園の視点の小括	33

第3章 草津市における都市経営への波及-----	34
第1節 観光等の地域活性化・草津市への経済波及効果の視点-----	34
1 草津市における地域活性化の現状と課題-----	34
1) 草津市の地域活性化と草津川跡地の利活用-----	34
2) 観光への波及効果-----	34
3) 中心市街地活性化への貢献-----	36
2 第5次草津市総合計画における地域活性化-----	37
3 草津川跡地の土地利用に関する市民意識-----	37
4 中心市街地活性化の必要性-----	38
1) 国の中心市街地活性化政策-----	38
2) 経済界の中心市街地活性化政策-----	38
3) 草津市民が考える中心市街地活性化政策-----	39
4) 草津市における中心市街地活性化政策の方向性-----	40
5) 近代的街づくり・伝統的街づくりと旧草津川-----	40
5 観光等の地域活性化・草津市への経済波及効果の視点の小括-----	41
第2節 草津駅周辺地域の自立した都市構造形成のための視点と 広域的役割強化のための視点-----	41
1 草津駅周辺地域の自立した都市構造形成のための視点-----	41
1) 草津駅のポテンシャル-----	41
2) 面的な回遊の必要性-----	42
3) 都市構造の形成における機能性と快適性の追求-----	43
2 広域的役割強化のための視点-----	43
1) 利用対象の広域化-----	43
2) 機能の広域化-----	44
3 草津駅周辺地域の自立した都市構造形成のための視点と 広域的役割強化のための視点の小括-----	46
第3節 市民参画・市民参加の視点-----	46
1 市民参画・市民参加の必然性-----	46
2 草津川跡地に係る市民参画・市民参加の実情-----	47
3 草津川跡地の利活用に係る今後の市民参画・市民参加-----	47
4 草津川跡地の利活用を契機として地域活動や社会活動へ-----	49
5 市民参画・市民参加の視点の小括-----	51

第4章 草津川跡地の利活用に係る草津未来研究所としての考え方-----	52
おわりに-----	57
関係者一覧-----	57
◎参考文献等-----	58
《参考資料①》 高田 昇教授（立命館大学政策科学部）資料 草津川廃川敷土地利用計画について-----	61
《参考資料②》 野洲川廃川敷地の事例-----	67
1 廃川の経緯-----	67
2 跡地利用の経緯-----	67
3 「びわこ地球市民の森」の概要-----	67
3-1 森のイメージ-----	68
3-2 ゾーニング-----	68
3-3 計画施設-----	68
4 森づくりの進め方-----	69
4-1 整備の方法-----	69
4-2 植樹のスタート-----	69
4-3 植樹の募集-----	69
4-4 導入植物について-----	69
5 森の管理運営-----	70
5-1 森づくりセンター-----	70
5-2 市民参加による管理-----	70
6 今後の課題-----	70

はじめに

平成14（2002）年に新草津川が通水されたことにより、旧草津川は、メロン街道から琵琶湖岸までの約1.3kmの河川区域を除き、JR東海道新幹線からメロン街道までの約5.7kmの区間は廃川となった。この河川区域も含め草津川跡地は、草津市にとって非常に貴重な財産であり、また、歴史的価値の高い遺産でもあることから、今後の草津市のまちづくりを進めていくうえで、重要な土地であるとの認識のもと、第5次草津市総合計画において、「うるおいネットワーク」の中で、憩いの空間を整える「緑のみち」として位置付けている。

そこで、草津市では、草津川跡地の土地活用の方向性を定めるべく、平成22（2010）年4月、学識経験者、関係団体代表者および公募市民等を構成メンバーとする「草津川廃川敷地土地活用検討委員会」を総合政策部企画調整課に設置し、現在、「草津川跡地の土地活用基本構想」の策定を進めている。その概ねの計画は、草津川廃川敷地土地活用検討委員会を年間に10回程度開催し、地元説明会やパブリックコメントを経て、今年度中に、全体の基本構想および優先整備地区を決定しようとするものである。

平成22年5月10日の第1回草津川廃川敷地土地活用検討委員会では、草津川跡地の経過等が説明されるとともに市民アンケート案が検討された。続く、6月29日の第2回委員会では、草津川跡地の暫定活用の経緯や市民アンケートの調査結果が報告されるとともにゾーンイメージが議論された。さらに、7月20日の第3回委員会ではブロック毎の課題整理と方向性が、8月30日の第4回委員会では土地利用基本構想が検討され、10月6日に開催された第5回委員会では土地利用基本構想（素案）が承認された。また、平成22（2010）年末には、草津川跡地周辺住民を対象とした住民説明会が開催され、平成23（2011）年1月17日の第6回委員会および2月4日の第7回委員会では、草津川跡地利用基本構想（素案）が議論された。今後も、草津川廃川敷地土地活用検討委員会や草津市議会の「旧草津川跡地対策特別委員会」において、多様な角度から議論される予定である。

草津川廃川敷地土地活用検討委員会では、どうしても草津川跡地周辺住民との関係性を意識した議論になりがちであるが、草津川跡地は草津市民全体にとっての貴重な財産であり、その利活用については、中長期的視点と本市にとってよりふさわしい視点から慎重に判断することが欠かせない。つまり、草津川跡地を時間軸も含めた俯瞰的視点や長期的視点から総合的に見つけ、その利活用について提言する役割が、草津未来研究所には求められている。したがって、現在検討されている事項が、ゾーニングを基本とした草津川跡地の土地利用計画であるのに対し、草津未来研究所においては、その前段の考え方を整理し、その後の具体的展開における留意点等について、草津川跡地の望ましい役割を中心として調査・研究しようとするものである。

本稿は、第1章から第4章までの4つの章で構成されている。第1章では、歴史的な観点から歴史的役割と歴史的・文化的遺産を保存する視点でみる草津川跡地の可

能性を考察した。続く第2章では、住みやすさの観点から草津川跡地の潜在的可能性を、第3章では、草津市における都市経営への波及を検討した。最後に、第4章として、第1章から第3章における考察や検討を踏まえ、中長期的な視点からみて、草津川跡地をどのように利活用していくことが本市にとってよりふさわしいのかについて、草津未来研究所の考えを述べている。